

## 編集後記

2010年（平成22年）の年報は感覚器研究に特化した臨床研究センター創立7年目の成果を掲載しています。視覚と聴覚の多くの研究論文が国内外へ発信されたことがわかります。特記すべき点は前センター長の三宅養三先生が発見した眼疾患の「オカルト黄斑ジストロフィー」の原因遺伝子を発見し、国際誌に掲載され、国内の有力新聞でも紹介されたことです。研究のリソースとなる競争的資金は文部科学研究費が約4800万円、厚生労働科学研究費が2億円、NHO研究費の感覚器分野で約3800万円、その他2400万円の合計約3億円を獲得したことは競争力のある研究者が集まっていることを示しています。分子生物学の岩田岳部長は米国のNIHの研究費をペンシルバニア大学の教授と共に申請し、2億円配分されることがわかり、大きな朗報となりました。研究の質も研究費の獲得もわが感覚器センターの誇りであることを強調したいと思います。小生は臨床研究センター長として3年、名誉センター長として1年の合計4年間、感覚器センターの運営に携わってまいりました。特に力を入れたことは運営の近代化と競争的資金の獲得です。2010年の年報が私の手による最後の編集となります。この2年間編集事務に携わったセンター事務室秘書の臼杵都さんとこの4年間私の活動を支えてきた秘書の関口香代子さんと松本葉子さんに感謝申し上げます。

最後に私と臨床研究センターを常日頃支援していただいた東京医療センター松本純夫病院長に心から感謝申し上げます。

2011年3月31日

名誉臨床研究センター長  
加我 君孝

独立行政法人国立病院機構東京医療センター臨床研究センター  
平成 22 年研究年報

2011 年 5 月発行

発行 独立行政法人国立病院機構  
東京医療センター  
臨床研究センター  
〒152-8902  
東京都目黒区東が丘2-5-1

印刷 株式会社 丹野